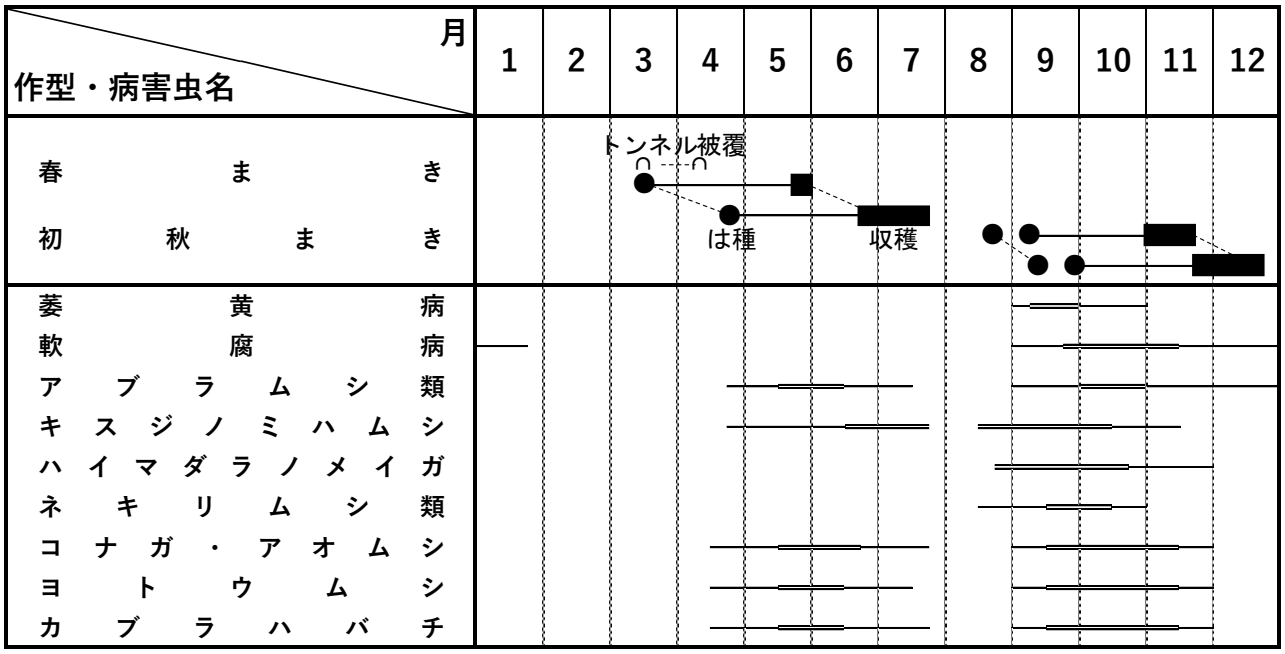
だいこん

農薬取締法上「だいこん」と「はつかだいこん（ラディッシュなど含む）」は別作物である。
また、「だいこん」は「非結球あぶらな科葉菜類」には含まれないので、葉を食用にする場合でも「だいこん」か「根菜類」「野菜類」に適用のある農薬を使用すること。
なお、「間引き菜、つまみ菜」への農薬使用については、後述のコラムを参照すること。



萎黄病

留意事項

1 土壌温度26～29℃の時に発生が多い。

防除方法

1 初秋まきでは、早まきを避ける。
2 耐病性品種を用いる。
3 発病株を早めに除去し、ほ場外へ持ち出し処分する。
4 土壌消毒を行う。（ⅩⅢ土壌消毒2　参照）

軟腐病

留意事項

1 高温多雨の年に発生が多い。
2 キスジノミハムシやヨトウムシの食害痕からも発生しやすい。
3 バイオキーパー水和剤は軟腐病の拮抗微生物を成分とする。

注１：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。
注２：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

防除方法

1 いね科、まめ科作物との輪作を行う。
2 高うねにして、排水を良くする。
3 初秋まきでは、過度の早まきは避ける。
4 発病株は、直ちに、ほ場外へ持ち出し処分する。
5 窒素過多にならないよう、適正施肥に努める。
6 発生が見込まれる時期に、下記の薬剤を予防的に散布する。
・バイオキーパー水和剤 ー(生)
【野菜類（除かぼちゃ、ズッキーニ）　500～2000倍　発病前～発病初期／ー】
7 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
・スターナ水和剤 ３１【1000倍　14日／5回】
・カスミンボルドー、カッパーシン水和剤 Ｍ１ ２４【1000倍　14日／3回】
・バリダシン液剤5 Ｕ１８【500倍　7日／4回】

モザイク病

防除方法

1 早まきを避ける。
2 耐病性品種を用いる。
3 シルバーポリフィルムで、マルチングを行う。
4 アブラムシ類の防除に努める。（アブラムシ類の項参照）

アブラムシ類

留意事項

1 モモアカアブラムシ、ダイコンアブラムシ、ニセダイコンアブラムシなどが発生する。
2 パダンSG水溶剤は薬害の恐れがあるため、夏期高温時にあぶらな科野菜の苗や軟弱苗には使用しない

防除方法

1 は種時に、下記の薬剤を施用する。
・ダントツ粒剤 ４Ａ【3～6kg／10a　まき溝処理土壌混和　は種時／1回】
・アクタラ粒剤5 ４Ａ【4kg／10a　作条混和　は種時／1回】
・プリロッソ粒剤 ２８【6kg／10a　まき溝土壌混和　は種時／1回】
2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
・トランスフォームフロアブル ４Ｃ【2000倍　前日／3回】
・スタークル顆粒水溶剤、アルバリン顆粒水溶剤 ４Ａ【2000～3000倍　7日／2回】
・パダンSG水溶剤 劇 １４【1500倍　7日／3回】
・ウララDF ２９【2000倍　前日／2回】

注１：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。
注２：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

キスジノミハムシ

留意事項

1 年3～4回発生で成虫越冬する。
2 成虫は葉を、幼虫は根を食害する。
3 高温乾燥時に多発する。
4 スタークル粒剤、アルバリン粒剤の成分ジノテフランの総使用回数は、5回以内（但し、は種時のまき溝土壌混和は1回以内、は種時の全面土壌混和は1回以内、粒剤の散布は1回以内、水溶剤の散布、液剤の散布及び無人航空機散布は合計2回以内）。
5 フォース粒剤の成分テフルトリンの総使用回数は、2回以内（但し、は種時までの処理は1回以内、は種後は1回以内）

防除方法

1 早まきを避ける。
2 幼虫に対して、下記の薬剤を施用する。
・スタークル粒剤、アルバリン粒剤 ４Ａ
【4～6kg／10a　まき溝土壌混和　は種時／1回】
【9～12kg／10a　全面土壌混和　は種時／1回】
【6kg／10a　生育期（30日）／1回】
・フォース粒剤 劇 ３Ａ
【6～9kg／10a　全面土壌混和　は種時／1回】
【4～9kg／10a　まき溝土壌混和　は種時／1回】
【6kg／10a　株元散布（14日）／1回】
3 成虫に対して、下記の薬剤を散布する。
・グレーシア乳剤 ３０【2000～3000倍　7日／2回】
・アクセルフロアブル ２２Ｂ【1000倍　7日／2回】
・パダンSG水溶剤 劇 １４【1500倍　7日／3回】

カブラハバチ

防除方法

1 は種時に、下記の薬剤を施用する。
・プリロッソ粒剤 ２８【カブラハバチ類　6kg／10a　まき溝土壌混和　は種時／1回】
2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
・グレーシア乳剤 ３０【カブラハバチ類　2000～3000倍　7日／2回】
・ベネビアOD ２８【カブラハバチ類　2000～4000倍　前日／3回】
・ディアナSC ５【2500～5000倍　前日／2回】
・モスピラン顆粒水溶剤 劇 ４Ａ【2000～4000倍　14日／1回】

注１：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。
注２：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

ハイマダラノメイガ（ダイコンシンクイ）

留意事項

1 5月下旬より発生が始まり、8～10月の高温乾燥時に発生が多い。
2 キャベツ､はくさいも加害する。
3 食入前の防除に努める。

防除方法

1 は種時に、下記の薬剤を施用する。
・プリロッソ粒剤 ２８【6kg／10a　まき溝土壌混和　は種時／1回】
2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
・グレーシア乳剤 ３０【2000～3000倍　7日／2回】
・ベネビアOD ２８【2000～4000倍　前日／3回】
・アファーム乳剤 ６【2000倍　7日／3回】
・ディアナSC ５【2500～5000倍　前日／2回】
・アクセルフロアブル ２２Ｂ【1000～2000倍　7日／2回】

ネキリムシ類

防除方法

1 下記の薬剤を施用する。
・デナポン5%ベイト １Ａ【3～6kg／10a　株元散布　30日／4回】
・ダイアジノン粒剤5 １Ｂ
【4～6kg／10a　全面土壌混和または作条土壌混和　は種時／1回】
【6kg／10a　土壌表面散布　生育期（21日）／1回】
・プリロッソ粒剤 ２８【6kg／10a　まき溝土壌混和　は種時／1回】
・アクセルベイト ２２Ｂ【3～6kg／10a　株元散布　7日／2回】

コナガ・アオムシ

留意事項

1 薬剤抵抗性が生じやすいため、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
2 幼虫による被害が著しいのは春と秋である。
3 あぶらな科野菜を加害するほか、ナズナ、イヌガラシ、スカシタゴボウなどの雑草にも寄生する。
4 コテツフロアブルは薬害の恐れがあるため、だいこんでは8葉期以降に使用する。

防除方法

1 は種時に、下記の薬剤を施用する。
・プリロッソ粒剤 ２８【6kg／10a　まき溝土壌混和　は種時／1回】

注１：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。
注２：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

・グレーシア乳剤 ３０【2000～3000倍　7日／2回】
・ベネビアOD ２８【2000～4000倍　前日／3回】
・アファーム乳剤 6【1000～2000倍　7日／3回】
・ディアナSC 5【2500～5000倍　前日／2回】
・コテツフロアブル 劇 １３【2000倍　14日／2回】
・プレオフロアブル ＵＮ【1000倍　14日／2回】
・ＢＴ剤 １１Ａ（Ⅸ野菜類の病害虫防除　3野菜類　参照）

ヨトウムシ

防除方法

1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

・ベネビアOD ２８【4000倍　前日／3回】
・ディアナSC 5【2500～5000倍　前日／2回】
・アクセルフロアブル ２２Ｂ【1000～2000倍　7日／2回】
・プレオフロアブル ＵＮ【1000倍　14日／2回】
・ＢＴ剤 １１Ａ（Ⅸ野菜類の病害虫防除　3野菜類　参照）

だいこんのつまみ菜、間引き菜への農薬使用について

収穫・出荷時の状態	農薬の使用
つまみ菜より若いダイコン	**農薬は使用しない。** 農薬を使用した場合は収穫・出荷しない。
つまみ菜 ：本葉おおむね2枚以上	ラベルを確認し、「農薬を使用した場合は収穫・出荷しない」「つまみ菜、間引き菜には使用しない」「本剤を使用した場合は食用に供さない」等の記載がある農薬は使用しない。 また、つまみ菜、間引き菜の収穫をする日を「収穫日」として、使用時期を遵守する。
間引き菜 ：本葉おおむね4枚以上	

注１：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。
注２：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。